



まだ日中は気温30度を超える暑さですが、早朝に吹く風は、涼しさが感じられるようになりました。

今週初めにメールでお知らせしたとおり、子どもたちの新型コロナウイルス感染は徐々に減ってきているものの、毎週数名の感染報告があがっています。これからも、体調の管理には十分お気を付けてください。

## ありがとうございました ～授業参観・学級集会～



9月6日は、台風11号接近による臨時休校のため、低学年の学級集会は中止しましたが、7日と9日には、全ての学年で授業参観を行うことができました。子どもたちの真剣に学ぶ姿、楽しんで学ぶ姿をご覧ください。

学級集会では、夏休みの生活の様子を伺ったり、学校での様子をお伝えしたりする中で、「2学期に子どもの力をここまで伸ばしたい」と、担任の指導計画をお聞きになったと思います。子どもの力を伸ばしたいと思うのは、家庭も学校も同じです。今後も、情報交換をしながら、力を合わせて育てていきましょう。

## お知らせ 代替教員の着任について

長期不在となっていた「ひまわり学級」の担任として、江口達雄先生が9月9日に着任しました。江口先生は、退職されていたのですが、本校の窮状を汲み取っていただき、この度、教壇へ復帰していただきました。

これから、6名のひまわり学級の子どもたちを中心に、指導をしていきます。どうぞよろしくお願いいたします。



## 新型コロナウイルス感染症の療養期間が変更

令和4年9月7日から、療養期間等が見直されました。

### ○有症患者

発症日から7日間経過し、かつ、症状軽快(\*)後24時間経過した場合には8日目から療養解除が可能になりました。ただし、10日間が経過するまでは、感染リスクが残存することから、検温など自身による健康状態の確認や、高齢者等ハイリスク者との接触、ハイリスク施設への不要不急の訪問、感染リスクの高い場所の利用や会食等を避けること、マスクを着用すること等、自主的な感染予防行動の徹底をお願いします。

(\*)症状軽快とは、解熱剤を使用せずに、解熱しており、呼吸器症状が改善傾向である場合をいいます。

### ○無症状患者(無症状病原体保有者)

検体採取日から7日間経過した場合には8日目に療養解除を可能とします(従来から変更なし)。加えて、5日目の抗原定性検査キットによる検査で陰性を確認した場合には、5日間経過後(6日目)に解除が可能となりました。

### ○濃厚接触者

待機期間は、最終接触日を0日目として5日間(6日目解除)が原則ですが、2日目及び3日目に抗原定性検査キットを用いた検査で陰性を確認した場合、3日目から待機解除が可能になりました。



## 教育実習生を紹介します

9月1日から21日まで養護教諭の実習生1名が、9月5日から10月4日まで小学校教諭の実習生2名が、本校で教育実習を受けています。3人とも本校の卒業生であり、同級生です。

養護教諭実習生の下田愛子さんは主に保健室で、教諭実習生の真辺明歌さんは主に3年3組、白石希星さんは主に2年2組で実習に励んでいます。子どもたちとも親しくなり、めきめき教員としての資質・能力を高めています。



左から下田さん、真辺さん、白石さん

## 運動場がすっきりしました！ PTA 除草作業



雨で延期していたPTA除草作業が、10日（土）に行われました。運動場の広範囲に生えた雑草を保護者・児童・教職員で抜きました。中には草刈り機を持参してくださる方もいて、伸びた草を刈り取っていただきました。たくさんの方に参加していただいたおかげで、短時間で運動場がすっきりしました。

早朝からお越しいただいた保護者・児童のみなさん、本当にありがとうございました。これから、体育科の授業や昼休みの遊びが安全にできるようになります。

## 力作ぞろい！夏休みの作品展

多目的室と家庭科室に所狭しと並んだ「夏休みの作品」は、どれも力作ぞろいでした。今年入学した1年生も、絵画や工作、自由研究にたくさん取り組み、素晴らしい出来でした。指導されたご家庭の方々の熱意も感じました。特に、中学年以上の自由研究は、自分の興味関心をもとに観察や実験、調査に取り組んでおり、とてもわかりやすくまとめていました。理科や総合的な学習の時間で学んできたことをよく生かしていると思いました。

理科の自由研究については、各学年から諫早市小・中学校科学展の入選作品を選び、さらに、4年生以上の4名の作品は、市美術・歴史館でも展示されます。



### コラム

### 自己決定感を育てる

自己決定感とは、**物事を自分で決めてやっているという感情**です。

この感情が低いと、「人がしないから動かない」「ご褒美がないからしない」というように、自分からやろうとすることができなくなります。主体性とか粘り強く頑張るといった気持ちを失うということです。

子育ての中で、「〇〇を頑張ったら、〇〇を買ってあげる」といった話をよく見聞きします。

子どもが幼い時期は、有効な手段ではありますが、それをずっと続けていると、「ご褒美がなければ（少なければ）しない」、「自分からは頑張ろうとしない」子どもになってしまいます。ちょっと古いですが、ハリポッターに出てきたダドリーの息子（クリスマスプレゼントが少ないとダダをこねる）のように・・・。

一方、自己決定感が高いと、何か褒美があるからといった外からの理由で行動を起こすのではなく、**できたことへの満足感や達成感（内側からの理由）のために自ら行動を起こす**ことができるようになります。つまり、主体的、積極的に行動することができるようになるというわけです。

今、子どもが「ご褒美がないからしない」と言うようであれば、いささか危険な状態だと言っても良いでしょう。また、いつもご褒美をちらつかせて動かすようにしているようであれば、これから方針転換することをお勧めします。

将来を考えれば、できた満足感や達成感を味わわせることで自己決定感を高めることが大切です。大人の世界になると、外からのご褒美はそう多くはないことを、皆さんはよくご存知だと思います。